

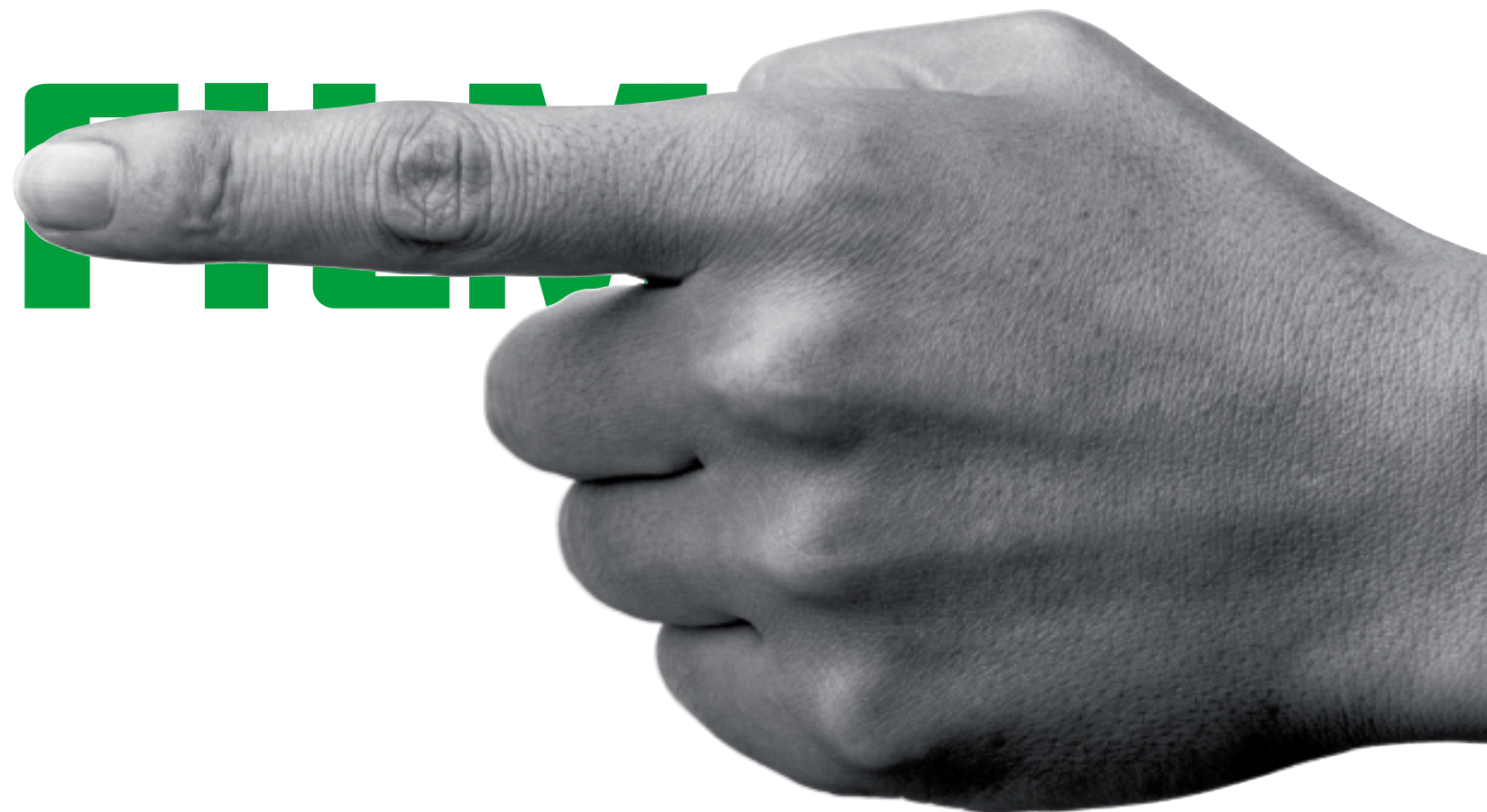
イメージしてください。

「いちばん売れてるデジタルカメラ」のメーカー名を。

それは電機メーカー？あるいはカメラメーカー？

いいえ、正解は「フィルム」を名にもつ会社です。^{*}

FUJIFILM



ある売れっ子の女優さんが、笑いながら話してました。彼女は、どちらかというとも現代的で行動的、オシャレで華やかな役柄の似合うタイプです。たとえば、彼女がフランス料理などのレストランにいくと、まわりのひとはニコニコとこっちを見てる。だけど、大好物のお蕎麦を食べているときは、ちょっと意外そうな顔をされることがある、というのです。そのひとは「フジ」ではじまり「カ」で終る名前の女優さんです。

芸能人という職業は、もうひとりの自分がいるような気がするものだそうです。役柄のイメージがひとり歩きしながら自分と重なっている。イメージにあわないとか、イメージとちがうと言われることは、私たちにもあります。こういう場合の「イメージ」とは「外から見られている自分」を気づかせてくれます。考えてみれば程度の差があるだけで、誰だって「イメージ」という「もうひとりの自分」をもっているのでしょうか。私たちが社会的存在として生きる以上、それは逃れられません。イメージは大切に、むずかしい。人間の社会で「イメージ」のもつ意味は大きくて、深い。

フジフィルムという会社のイメージは、どうでしょう。やっぱり写真フィルムのメーカー、かな。社名にしてるぐらいだから。みなさんに親しまれたこの社名を変えるつもりはありません。けれど、事業領域はそれだけにとどまらないこと、もっと知っていただきたいのです。写真の画像システムを基盤とした総合的な情報技術のメーカー、が、フジフィルムの実像です。たとえば、話題のデジタルカメラ。売上げのNo.1はフジフィルムの「FinePix」です。意外に思われますか。デジタルの画像技術も、まさに得意の専門領域。イメージがすこし、変わったかな？

「image」を辞書でひけば、一番目の意味は「イメージ、印象」と説明しています。この意味でのイメージは、すでに日本語にとけこんだことばです。imageには、さらに「生き写し、そっくりなもの」そして「画像、映像」の意味があります。写真にはじまり、あらゆる画像技術を研究開発してきたフジフィルムは、じつは「image」の専門メーカーということが出来ます。Imaging & Informationをスローガンにも掲げてきました。現在言われる情報化やIT革命は、画像を中心とした視覚的な情報を、いかに速く鮮明に伝えるかということにかかっています。imageは、多くのことを伝えます。それは写真にはじまったフジフィルムが、誰よりもつよく感じ、つよく信じ、研究を重ねてきた領域です。光をベースにした映像コミュニケーションを、より快適に美しく。それがフジフィルムという会社のアイデンティティです。だから、デジタル映像もまかせてください。その象徴的な成果をいえば、デジタルカメラの心臓部にあたる「スーパーCCDハニカム」。受光素子(画素)を従来の格子状からハニカム状の配列にする技術で、画期的な高画質を実現しました。その美しさは、百聞は一見にしかず。「デジカメNo.1」の技術的裏付けです。

国境やことばを越えたコミュニケーション。それが、image。人間の知的精神的活動が発達するかぎり、imageの創造と蓄積は加速度的に拡大しつづけるでしょう。私たちは過去に例のない質と量と速度の「imageの世紀」を、すでに迎えています。光学、化学、電子工学から人間を知る認知科学の領域まで。「imageを科学する」世界的フロンティアとして、フジフィルムは21世紀のメインストリートを進みます。



VOL.
FUJIFILM
I&I-Imaging & Information
www.fujifilm.co.jp

imageする会社。FUJIFILM